

4 歳児保育指導案

- 1 日 時 令和5年11月9日(木) 9:00~10:50
- 2 対象児 4歳児 もも組(男児9名 女児7名 計16名)
- 3 場 所 各保育室・園庭
- 4 活動名 「わくわく遊園地で遊ぼう」

5 幼児の姿

- 2学期になり、ほとんどの幼児が登園時、正門から教師や友達の姿を見つけると、走って保育室に向かったり、身支度をしながら、「今日はダンスをしたいな」「太鼓をしよう」と話したりするなど、幼稚園で遊ぶことを楽しみに登園している。また、保護者と離れる際、気持ちが落ち着くまでに時間がかかっていた幼児も、教師や友達との関わりの中で気持ちを切り替え、身支度を始めるようになってきている。
- 1学期、園庭に出るとすぐに電車ごっこやサーキット遊びなどの好きな遊びを見つけて繰り返し楽しむ姿や、ブランコなど安心する場で友達の様子を見ながら、やりたい遊びを見つける姿も見られた。運動会後は、5歳児が使っていた太鼓やリボンをまねて、バケツ太鼓や紙のリボンを教師と作り、ステージで友達と一緒に踊ったり、竹馬や一輪車にチャレンジしたりする姿が見られる。遊びの中で、踊る曲の順番や踊る場所など、自分の思いを通そうとしてトラブルになることがある。
- 7月の夏祭りでは、おむすびやかき氷などの食べ物をたくさん作り、お店屋さんごっこを楽しんだ。2学期になり、5歳児と一緒に、木の実や草花などのいろいろな材料を使って、じっくりとケーキに飾り付けをし、カフェの衣装を身に付けてやり取りを楽しんだりする姿が見られる。一方で、興味がすぐに移り、使った用具や材料を出したままその場を離れてしまい、遊びが長続きしない幼児もいる。
- 1学期から続けている遊びの振り返り「おはなしタイム」では、楽しかったことや嬉しかったことなど、喜んで話す幼児が増えてきている。中には、伝えたい気持ちはあるが、どう伝えたらいいのか分からず思うように伝えられない幼児や、自分の思いを伝えたい気持ちが強く、友達の話聞いていない幼児もいる。

6 この時期のねらい（3期）

- いろいろな遊びに興味をもち、友達と一緒に喜んで遊ぶ。
- 思ったこと、感じたことを表現しながら遊ぶことを楽しむ。

7 本日のねらい

- 自分の思いを出しながら、教師や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

8 指導にあたって

- 登園して来る幼児の表情や行動などをよく見て、言葉を掛けたり、触れ合ったりしながら、一人一人の思いを笑顔で受け止め、安心して遊びや活動に取り組むことができるようにする。
- 幼児の興味や関心を捉えながら、教師も一緒に遊び、楽しさを共有していく。友達とトラブルになった時には、それぞれの思いを受け止め、思いを代弁するなど仲立ちをし、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができるようにしていく。
- 教師はじっくりと遊びに関わり、幼児が自分なりの表現や友達とのやり取りを楽しんでいる姿を認め、共感していくことで、もっとこうしてみようと工夫したり試したりしながら、ケーキ作りなどを楽しむことができるようにする。また、幼児の興味や関心に応じた素材や用具を準備し、表示を付け、使いやすく片付けやすいようにする。
- 遊びの振り返り「おはなしタイム」では、自分の思ったことや感じたことを安心して伝えることができるよう、幼児の思いに寄り添ながら話を聞き、相手に伝わる喜びを味わうことができるようにする。また、話をする際の座る位置や声の大きさを考慮したり、幼児の思いや考えを絵や文字で視覚化したりして、教師や友達の話に関心をもって聞くことができるようにしていく。

9 評価の観点（○幼児 ●教師）

- 自分なりの思いを出して、友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいたか。
- 幼児が遊びをじっくりと楽しむことができるように、興味や関心、動線を見ながら、環境構成を行っていたか。
- 幼児一人一人が、安心して友達と一緒に好きな遊びを楽しむことができるような援助をしていたか。